

発刊のことば

隅谷調査団団長 隅谷 三喜男

『成田空港問題円卓会議記録集』はシンポジウムに引き続き開催された円卓会議の記録を『成田空港問題シンポジウム記録集』と同一の趣旨で編集されたものである。

十五回を数えたシンポジウムは二十五年にわたる成田空港問題を検証し、厳しい討議を経て、反対同盟と運輸省・空港公団など当局側との対立を解消し、問題解決の基盤をつくり上げることになった。シンポジウムの最終段階で、同盟側から「二期工事B・C滑走路建設計画を白紙に戻す」と併せて、今後の成田空港問題の解決にあたっては「空港をめぐる、地域の理性あるコンセンサスをつくり上げる新しい場が設けられ、そこに委ねられるべきである」との提案が出さ

れ、運輸省・空港公団も新しい場の設定に賛同し、その具体化については調査団に一任された。こうしてつくり出されたのが成田空港問題円卓会議である。

円卓会議はシンポジウムの構成メンバーのほかに、地域代表を加え、従前の対決的構造から、文字通り円卓を囲んで、公開で討議する場となった。円卓会議は一九九三年九月に第一回を開催し、九四年十月の第十二次の円卓会議で「平行滑走路の整備は必要である」という運輸省の方針は理解できる。但し用地取得のため強制的手段を用いてはならない」「横風用滑走路の整備については、平行滑走路が完成する時点で改めて提案する」ことで、一応の合意を得て紛争の幕を閉じることになった。さらに、今後の課題に対応するため、

「空港の建設・運営における公正を担保するための第三者機関として共生懇談会（仮称）を設置する」「地球的課題の実験村の構想については運輸省に検討委員会を設けて速やかに具体化のための検討を開始する」ことを約束して、第一回シンポジウム以来三年にわたった成田空港問題解決のための話し合いを成功裡に閉じたのである。

これにより、言論によって紛争を解決していくというルール、さらには地域民主主義を定着させ、また地域と空港の共生に向けて第一歩をしるすことになったと思う。この間の経緯は本記録集に尽くされており、戦後日本の民主主義が市民の基底まで含めて、どのように形成されていくのか、その具体的事例がここに記録されているといっていだろう。

本記録集の作成にあたっては、先のシンポジウム記録集と同じ編集委員会がその任に当られ、千葉県および地域振興連絡協議会がこれを支援されたことをここに

に特記し、厚く感謝の意を記しておく。

円卓会議にかかわった方々への苦勞に感謝するとともに、今後、成田空港問題とその解決の途に関心を持たれる方々に、本記録集が役立つことを願ってやまない。

一九九六年三月